

宣誓書

2023年4月1日

岩井医療財団はグローバル・コンパクト(以下 GC)を支持し、人権、労働、環境、腐敗防止に関する GC の 10 の原則並びに持続可能な開発目標(SDGs)達成への取組を、継続して実践することをここに宣言いたします。

本文書は岩井医療財団の GC に対する取組内容とその成果を説明し、ステークホルダー及び公に明言するものがあります。

なお、会員として得られた他社・団体に関する情報を、第三者に漏洩しないことをお約束します。

医療法人財団 岩井医療財団
理事長 岩井 宏樹

岩井 宏樹

国連グローバルコンパクトの目標達成を促進する当グループの取り組みについて
(2021年4月～2023年3月)



すべての人に健康と福祉を

●低侵襲手術(患者さんの身体に負担の少ない手術)に注力

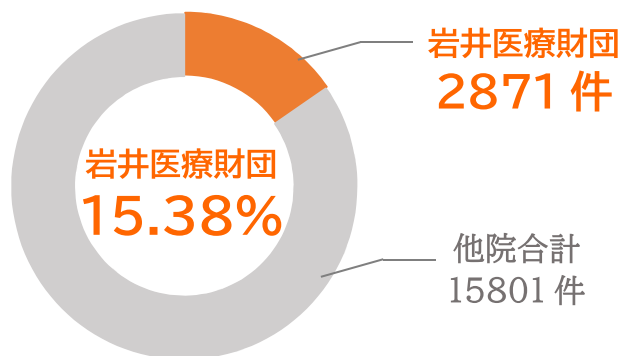
当グループは低侵襲手術(患者さんの身体に負担の少ない手術)に特化しております。

中でも脊椎領域に関しては 2001 年に脊椎内視鏡下手術を開始して以来、計 24,000 件以上の同手術を行っております。脊椎内視鏡下手術は従来の切開手術に比べ、傷口がわずか数センチと小さい為、術後の痛みが少なく、早期社会復帰が可能など多くの利点がある治療法です。術者にとっても手術野を拡大して見る事ができるため、微細な操作が行える等の利点があります。

日本国内で 1 年間に行われる脊椎内視鏡下手術のうち、約 15%が当グループで実施されています(参考文献:日本整形外科学会雑誌 第 97 巻 第 1 号)

2021 年全国脊椎内視鏡下手術実施件数

※日本整形外科学会雑誌 第 97 巻 第 1 号調べ



●外国人患者受け入れ体制の強化

当グループでは、日本語で意思の疎通ができない患者さんにも安心して診療をうけていただくために、下記の取り組みを行っております。

- ・検査同意書、問診等の書類を各種言語で用意
- ・モバイル翻訳機器、電話通訳システムを導入
- ・事前に当院での治療適否を判定するコンサルテーションサービスを実施

●遠隔地在住の方への利便性向上への取り組み

当グループは、全国から非常に多くの患者さんに来院いただいています。

2017年からは遠方にお住まいの方の利便性向上を目指し、初診患者さんの手術相談を目的としたオンライン診療を導入しています。

事前に患者さんの近隣医療機関等で撮影したMRIなどのデータを送付いただき、それを確認しながらビデオ通話を行うことで対面診察に近い環境下で、オンライン診療を行っています。手術適応の可能性があれば、当グループでの診療計画を提案することも可能です。

2020年の新型コロナウイルス感染拡大以降は需要も増加しており、診察枠を増やして対応しています。2021年度はオンライン診療を受診された患者さん181名のうち、約4割がその後当グループで手術を受けられました。その中には北海道や沖縄県など国内の遠隔地にお住まいの方のみならず、海外在留邦人も含まれます。



4 質の高い教育を
みんなに



質の高い教育をみんなに

●他院からの専修医の受け入れ

脊椎内視鏡下手術に熟練した医師が多く在籍している当グループには、他院から多くの脊椎外科医が国内留学にいらっやいます。特に東京大学医学部附属病院からは、毎年1名が常勤医師として1年間当グループに在籍し、脊椎内視鏡下手術の研鑽を積んでおります。

21年度以降は東京大学医学部附属病院から2名、福島県立医科大学附属会津医療センターより1名の計3名の医師が当グループに出向し、研修を実施しています。

当グループでの研修を終えた医師の中には、その後、日本整形外科学会の脊椎内視鏡下手術・技術認定医の資格を取得する医師もいます。脊椎内視鏡下手術・技術認定医とは、脊椎内視鏡下手術の高い技術を有する医師のみが取得できる資格です。申請に多くの要件があり、日本の認定医制度の中でも、取得が難しい資格のひとつとされています。

現在、脊椎内視鏡下手術・技術認定医は都内に25名おりますが、そのうち11名が当院に勤務している医師、もしくは当院で研鑽を積んだ医師です。



●手術見学の受け入れ

当財団では教育の一環として他医療機関の医師の手術見学を受け入れております。近年では、国内だけでなく、海外の医師も見学に来られています。医師以外にも看護師や医療機器メーカー等業者の受け入れも行っており、2021年度以降は新型コロナウイルス感染拡大につき一時中止しておりましたが、再開後2023年3月末までに延べ45名の手術見学がありました。

● 国外からの臨床修練医の受け入れ

当グループの運営する岩井整形外科病院は、日本の医師免許を持たない外国人医師も診療行為が可能になる外国医師臨床修練病院の指定を受けています。新型コロナウイルス感染拡大以降の入国制限解除後はアメリカ国籍の医師1名を臨床修練医として受け入れ、診療行為を通じた研修を行いました。また現在はドミニカ共和国国籍の医師の研修を実施しています。なお臨床修練医の日本滞在中の住居費用は当グループが負担しており、また食事の提供も行っています。



● 論文投稿・学会発表

医師をはじめとする医療従事者には、臨床研究について学会や医学雑誌で発表する責務があります。常に新しい研究成果を公表していくことで、さまざまな治療の可能性を共有し、医療の進歩や質の向上に寄与しています。

日本語の論文を執筆・国内の医学雑誌に投稿するのも意義のあることですが、全世界で広く出版されている医学雑誌は英語が主流です。英語で出版されている医学雑誌は、流通量・情報量共に多く、情報のスピードも日本語の医学雑誌と比べて優位な立場にあります。

国際誌に論文が掲載されるには厳しい査読基準がありますが、当グループに所属する医師は、多くの英語論文を執筆し、国際誌に掲載されている実績があります。

2021 年度、2022 年度 当グループ名義での学会発表・論文投稿件数

	学会発表	論文投稿
日本語発表	73 件	7 件
英語発表	2 件	2 件



13 気候変動に具体的な対策を

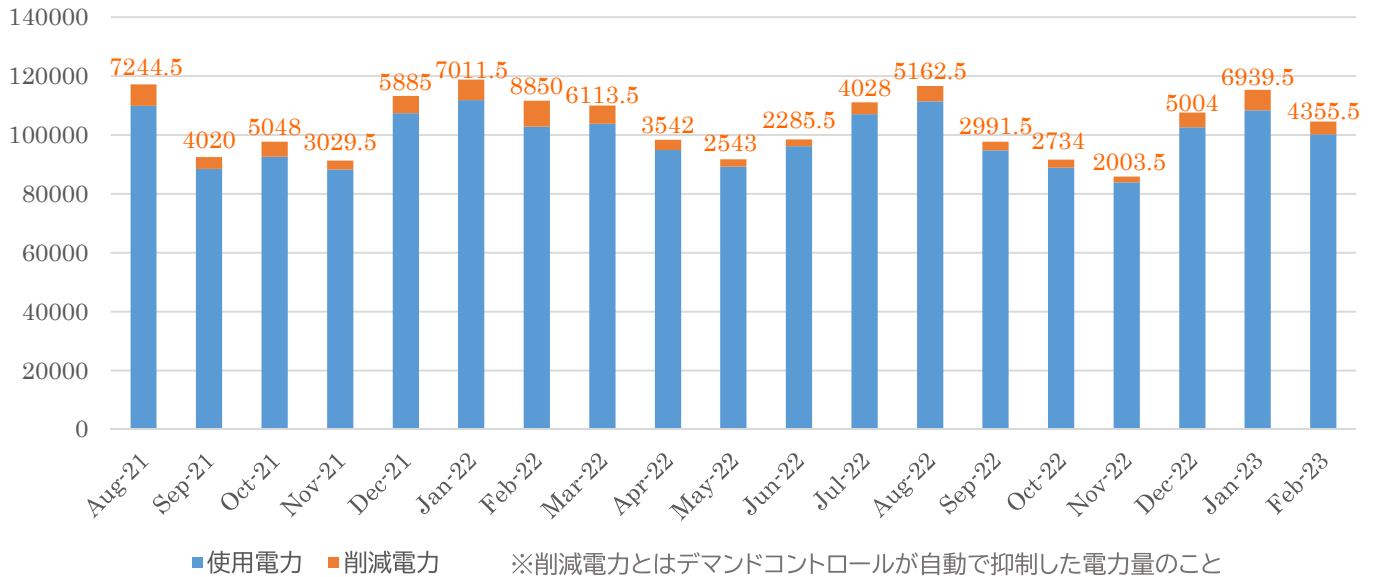
●省エネルギー、省資源の推進

当グループで使用している紙類(コピー用紙、トイレトペーパー、ペーパータオル等)は 100%再生紙を使用しています。

●空調設備のデマンドコントロール導入による使用電力の削減

当グループの運営する稲波脊椎・関節病院では、空調設備のデマンドコントロールを導入しています。これは院内で最も使用電力量の多いところを事務部門で制御することにより、電力使用量を抑制することができるシステムです。2021年8月の導入以降、2023年2月末までに累計8万8791kWhの使用電力削減を達成しています。これはCO2の排出量に換算すると約40トン分にあたります。

稲波脊椎・関節病院 デマンドコントロール導入による使用電力の削減量 (単位:kWh)





働きがいも経済成長も
人や国の不平等をなくそう

●外国人職員の雇用

当グループは年齢、性別、人種、民族などで区別することなく、外国籍の方も雇用しております。
現在当グループには7名の外国人職員が勤務しており、その全員が日本人と同じ待遇での雇用形態となっています。

●すべての職員が働きやすい環境づくり

当グループは健康管理部を設置し、健康問題やハラスメント等に対して常に保健師が相談に応じ、個別にサポートを行えるよう環境を整えております。
また健康管理部ではストレスチェックも定期的に行っており、すべての職員が心身ともに健康な状態で活躍できるよう取り組んでいます。